

算合歩 法利單

筆算科 (高等第一學年後期)  
 例解。元金二百五十圓、期間三年、利息五十二圓五十錢なる時は利率何程。  
 $52,5 + 3 + 250 = 0,07$  答 年七分

(四) 利息と元金と利率とより期間を求むる場合。左の式による。

$$(元金) + (元金 \times 利率) = (期間)$$

例解。元金八百圓、利率一分五厘、利息二百六十圓なる時は、その期間如何。  
 $260 + (800 \times 0,065) = 5$  答 五ヶ年

(五) 利息と期間と利率とより元金を求むる場合。左の式による。

$$(元金) + (期間) + (利率) = (元金)$$

例解。利率月一分二厘、期間六ヶ月、利息九圓三十六錢なる時は、元金何程。  
 $9,36 + 6 + 0,012 = 130$  答 百三十一圓

(六) 元利合計利率と期間とより元金を求むる場合。左の式に依る。

$$(元利合計) + (1 + 利率 \times 期間) = (元金)$$

例解。利率年一割二分、期間二ヶ年半、元利合計五百二十圓なる時は、元金何程。  
 $500 + (1 + 0,12 \times 2,5) = 400$  答 四百圓

(一) 月利を日歩に換算する方法。

$$100 \text{円} \times \text{月利率} + 30 = \text{日歩} \quad \text{但1ヶ月を30日とす。}$$

例解。月利一分二厘を日歩に換算せよ。

$$100 \text{円} \times 0,012 + 30 = 0,04$$
 答 四錢

(二) 年利を日歩に換算する方法。

$$100 \text{円} \times \text{年利率} + 365 = \text{日歩} \quad \text{但1ヶ年を365日とす。}$$

例解。年利一割五分を日歩に換算せよ。

$$100 \times 0,15 + 365 = 0,41$$
 答 四錢一厘強

筆算科 (高等第一學年後期)

筆算科 (高等第一學年後期)  
法 合 歩  
法 利 單

換算

(三) 日歩を月利に換算する方法。

$$\begin{array}{l} \text{日歩} \times 30 + 100 = \text{月利率} \\ 30 \text{は1ヶ月の日數} \\ 100 \text{は100圓なり、} \end{array}$$

例解。日歩二錢を月利に換算せよ。

$$0,02 \times 30 + 100 = 0,006 \quad \text{答 六厘}$$

(四) 日歩を年利に換算する方法。

$$\begin{array}{l} \text{日歩} \times 365 \div 100 = \text{年利率} \\ 365 \text{は1年の日數} \\ 100 \text{は100圓なり、} \end{array}$$

例解。日歩一錢二厘を年利に換算せよ。

$$0,012 \times 365 \div 100 = 0,0438 \quad \text{答 四歩三厘八毛}$$

筆算科 (高等第一學年後期)  
法 合 歩  
法 利 單

(1) 元金三百圓を十ヶ月間貸すに、日歩二錢五厘の利息とすると、月利一歩一厘とすると、利息に於て何程の差あるや。

$$\text{日歩 } 300 \text{圓} \times 0,025 \div 100 = 0,075 \text{圓} \dots \dots 1 \text{日の利息}$$

$$\text{日歩 } 0,075 \text{圓} \times 30 \times 10 = 22,5 \text{圓} \dots \dots 10 \text{ヶ月の利息}$$

$$\text{月利 } 300 \text{圓} \times 0,011 \times 10 = 33 \text{圓} \dots \dots$$

$$\text{答 } 33 \text{圓} - 22,5 \text{圓} = 10,5 \text{圓} \quad \text{答 月利率にて貸す方 } 10,5 \text{圓多し}$$

(2) 一月より毎月初めに、幾圓づ、預くれば、満七ヶ月に八十四錢の利を生ずるか。但利率は月六厘とす。

$$\begin{array}{l} 0,006 \text{ 元金一ケ} \\ 0,012 \text{ 二ケ} \end{array}$$

算合歩 題問の法利單

筆算科 (高等第一學年後期)

利率合計	0,018	〇	三ケ	
	0,024	〇	四ケ	
	0,030	〇	五ケ	
	0,036	〇	六ケ	
	0,042	〇	七ケ	
	0,168			

$0,84^{\text{円}} \div 0,168 = 5^{\text{円}}$       答 五圓

(3) 三月末、五月末、九月末に各等額の金を預け、年末に利息三十八圓を得んには何圓づゝ預くべきか。

但利率は月五厘とす。

3 月末に預けたるものゝ年末迄の利率  $0,005 \times (12 - 3) = 0,045$   
 5 月末に預けたるものゝ……………  $0,005 \times (12 - 5) = 0,035$   
 9 月末に預けたるものゝ……………  $0,005 \times (12 - 9) = 0,015$   
 $38^{\text{円}} \div (0,045 + 0,035 + 0,015) = 400^{\text{円}}$       答 四百圓

算合歩 法利複

(一) 複利法ある一定の期間毎に、利息を計算して元金に加へ、それをその次の期間の元金とする法なり。

(二) 元利合計の計算左の式による。

$(\text{元金}) \times (1 + \text{利率})^{\text{(期間)}} = \text{元金合計}$

注意。(1 + 利率)<sup>(期間)</sup>は利率に一を加へたるものを、期間の数だけ自乗する意味なり。この數は複利表中より見出すこと便利なり。

例解の一。元金三百三十圓年利七分として、一年毎に利子を元金に繰入るゝ時は、四箇年後の元利合計何程なるか。又その利息は何程か。

$330^{\text{円}} \times (1 + 0,07)^4 = 432,563^{\text{円}}$       元利合計(厘以下を四捨五入したる)

筆算科 (高等第一學年後期)

算 合 歩  
法 利 複

432,563円 - 330円 = 102,563円 複利

例解の二。年利八分、元金四百圓として半年毎に利子を元金に繰込む時は三箇年後の利息何程か。

年利8分なる故半年には4分期間は3×2=6 となる。

400円 × (1 + 0,04)<sup>6</sup> = 506,128円 元利合計

506,128円 - 400円 = 106,128円 答

例解の三。元金五十圓、年利五分として、一年毎に利子を元金に繰込む時は、三年三ヶ月後の元利合計何程なるか。

50円 × (1 + 0,05)<sup>3</sup> × (1 + 0,0125) = 58,605円 元利合計

58,605円 - 50円 = 8,605円 答 八圓六十錢五厘

算 合 歩  
法 利 複

(三)元金の計算は左の式による。

(元利合計) ÷ (1 + 利率)<sup>(期間)</sup> = 元金

例解の一。年利六分にて二ケ年間若干圓を貸し、一年毎に利息を元金に繰入れたるに、元利合計六百七十四圓十六錢となりたり。元金何程。

674,16円 ÷ (1 + 0,06)<sup>2</sup> = 600円 答 六百圓

例解の二。年利九分、にて一ケ年半若干圓を貸し、半年毎に利息を元金に繰入れたるに元利合計百七十一圓十七錢五厘となりたり。元金何程。

171,175円 ÷ (1 + 0,045)<sup>3</sup> = 150円強 答

算科 (高等第一學年後期)

例解の三。年利九分にて、四ヶ月毎に利息を元金に繰込むときと、單利

法によるるときとは、元金三百圓に對する二箇年間の利子に何程の差あるか。

$$\text{複利} \quad 300 \text{円} \times (1 + 0.03)^6 = 358,216 \text{円}$$

$$\text{單利法} \quad 358,216 \text{円} - 300 = 58,216 \text{円} \quad \text{複利} \quad 518 \text{円} 21 \text{銭} 6 \text{厘}$$

$$300 \text{円} \times 0.09 \times 2 = 54 \text{円} \quad \text{單利} \quad 54 \text{円}$$

$$\text{故に} \quad 58,216 \text{円} - 54 \text{円} = 4,216 \text{円}$$

答 複利の方四圓二十一銭六厘多し。

比 例

(一) 比—甲數は乙數の何倍に當るか、又は何分の何程なるかといふことを考へたる時は、この二數の關係を、甲數の乙數に對する比と稱す。

(二) 比の書き方と讀み方—左の如し。

$$10 : 5 \quad 10 \text{ の } 5 \text{ に 對 する 比} \quad (10 \text{ 及 } 9 \text{ は 比 の 前 項 に 對 する 比 として } 5 \text{ 及 } 13 \text{ は 後 項 なり})$$

(三) 比の値の求め方—甲數の乙數に對する比は、甲數を乙數にて割ればよし。

$$\text{前項} \div \text{後項} = (\text{比の値})$$

(四) 前項後項及比の値の關係

$$\text{前項} + \text{後項} = (\text{比の値}) \quad \text{前項} = \text{後項} \times (\text{比の値})$$

$$\text{後項} = \text{前項} \div (\text{比の値})$$

比

- (1) 次の比例式の正しき理をいひなさい。  $3:12=8:32$   $3 \times 32=96$   $12 \times 8=96$   
 外項の積と内項の積とが相等しきを以てこの比例式は正しきものとす。
- (2) 次の比例式の比の價を勘定せよ。

$$6:18=9:x \quad 9 \times \frac{18}{6} = 27 \quad \text{答 } 27$$

$$8:12=x:24 \quad 24 \times \frac{8}{12} = 16 \quad \text{答 } 16$$

$$28m:12m=84:x \quad 84 \times \frac{12}{28} = 36 \quad \text{答 } 36$$

$$6m:10m=2m:14m \quad 14 \times \frac{6}{10} = 8\frac{2}{5} \quad \text{答 } 8\frac{2}{5}$$

- (3) 比例式の第一項は四尺五寸にして第二項は一尺八寸、第四項が三十六錢なれば第三項は何程なるか。

$$4.5R:1.8R=x:36m \quad 36 \times \frac{4.5}{1.8} = 90m \quad \text{答 } 90m$$

- (4) 第一項が第二項の四倍なれば第三項は第四項の何倍なるか。 答 四倍  
 第四項は第三項の何倍又は何分の一に當るか。 答 四分の一

例式

比

- (一) 正比例—一方が二倍三倍になる時、他の方も二倍三倍になるときは、二つの量が互に正比例すと稱す。
- 例。二時間に三里歩み得る人、六時間に九里歩めば、即ち二つの數が正比例するなり。

- (二) 正比例の問題の解き方—左の例解を見てさとるべし。

例解の一。米四斗の價六圓八十錢なる時、五斗の價何程。

$$4斗 \quad 680m$$

$$5斗 \quad x$$

$$x = 680 \times \frac{5}{4} = \frac{170 \times 5}{4} = 850 \quad \text{答 } 八圓五十錢$$

正比例

例解の二。金七百圓に對する一年の利息五十六圓なるときは、同じ利率

にて金五百圓に對する一年の利息は何程か。

700円 56円

500円 x円

$$x = 56 \times \frac{500}{700} = \frac{8 \times 5}{7} = 40$$

答 四十圓

正比例

例解の三。五坪の價百三十圓の割なる時は、間口三間奥行六間の土地の價何程なるか。

5坪 130圓

3 x 8 = 18坪 x坪

$$x = 130 \times \frac{18}{5} = \frac{26 \times 18}{5} = 468$$

答 四百六十八圓

正比例

比 反

比

例 例

(一) 反比例 一方が二倍三倍になる時、他の方が二分の一、三分の一になる時は、二つの量が互に反比例すと稱す。

例。四人が三日間に仕上ぐる仕事を、二人が六日間かゝる時は、即ち二つの量が互に反比例するなり。

(二) 反比例の問題の解き方 左の例解を見るべし。

例解の一。十五人にて四十日間かゝる仕事を、九人にてなさば何日間か

15人 40日

9人 x日

$$x = 40 \times \frac{15}{9} = \frac{40 \times 5}{3} = 66 \frac{2}{3}$$

答 六十六日三分の二

反比例

比  
反

比

例  
例

算科 (第一學年後期)

例解の二。甲が五里行く間に乙が八里行けば、甲が十二時間かゝる道を

乙は何時間にて行くか。

5里 12時間

8里

$$x = 12 \times \frac{5}{8} = \frac{3 \times 5}{2}$$

答 七時間半

反比例

例解の三。千二百人にて三十日間支へ得る糧食を、九百人にては何日間支へ得るか。

1200人 30日

900人

$$30 \times \frac{1200}{900} = 40$$

答 四十日

反比例

比  
按

分

比

例  
例

(一) 按分比例 一つの數を、ある與へられたる二つ以上の數に比例するやうに、分配する法を、按分比例といふ。

(二) 按分比例の解き方 一つの數を、與へられたる二つ以上の數に比例するやうに分配するには、その與へられたる數を殘らず加へ合せたるものを分母とし、その與へられたる各の數を分子とせる分數を前の一數に掛くべし。

例解の一。金百二十圓を四、七九に比例するやうに分配せよ。

$$4 + 7 + 9 = 20$$

$$120 \times \frac{4}{20} = 24$$

$$120 \times \frac{7}{20} = 42$$

$$120 \times \frac{9}{20} = 54$$

二十四圓

四十二圓

五十四圓



例 比 比  
例 比 分 按

筆算科 (高等第一學年後期)

二二八

例解の二、田地六町六反を三子に分配するに、長子と次子との比は十と八との如く、次子と末子との比は四と二との如くなりといふ二人の所得各何程。

甲 乙 丙 乙が8の時は

$$2 \times \frac{8}{4} = \frac{2 \times 8^2}{4} = 4$$

10:8 4:2

故に甲 乙 丙の比は 10:8:4

$$10+8+4=22$$

$$66 \times \frac{10}{22} = 30$$

$$66 \times \frac{8}{22} = 24$$

$$66 \times \frac{4}{22} = 12$$

三町歩  
二町四反  
一町二反

高等  
小學  
珠算科表解

第一學年  
後期

法 除

除 小  
の  
法 數

珠算科 (高等第一學年後期)  
 小數の除法は、整数の除法と異なる事なし。唯位取は左の規定に従ふべし。  
 除數の首位分なるときは、商の一の位は、そのまゝ動くことなし。  
 除數の首位厘なるときは、商の一の位は、元の一の位の右へ一桁うつる。  
 除數の首位毛なるときは、商の一の位は、元の一の位の右へ二桁うつる。  
 除數の首位絲なるときは、商の一の位は、元の一の位の右へ三桁うつる。  
 除數の首位忽なるときは、商の一の位は、元の一の位の右へ四桁うつる。  
 歩合算の如き割分厘毛糸等を用ふるときは、分を割に厘を分に毛を厘と見  
 て取扱ふべし。

- 見九の一。(一が一もどす。)(見九の二。)(二が二もどす。)
- 見九の三。(三が三もどす。)(見九の四。)(四が四もどす。)
- 見九の五。(五が五もどす。)(見九の六。)(六が六もどす。)
- 見九の七。(七が七もどす。)(見九の八。)(八が八もどす。)
- 見九の九。(九が九もどす。)

法 除

除 九  
の  
法 用 方 呼 九

例 三千二百十九を三十七にて除せよ。 答八十七  
 3219の3を37の3にて除る時に、三進の一七が七引くとして7を減ずること能はざるにより、見九の三と九を唱へ、3を9とし、次へ3を加へ、9  
 519となす。次に七九六十三と減ずること能はざるにより、1か3展すといひて9より1をとるとして8となし、5へ3を加ふ。而して七八五十六と引き、82  
 59となす。次には、3にて259を除し、三二十六の二三進の一として8749となし、七七四九を引き去る。

- 100 ÷ 11 = 9,3909
- 10205 ÷ 157 = 65
- 34272 ÷ 36 = 952
- 32508 ÷ 387 = 84
- 2408 ÷ 28 = 86
- 238896 ÷ 243 = 983
- 44394 ÷ 49 = 06
- 4287 ÷ 442 = 97
- 52326 ÷ 54 = 969
- 51282 ÷ 518 = 99

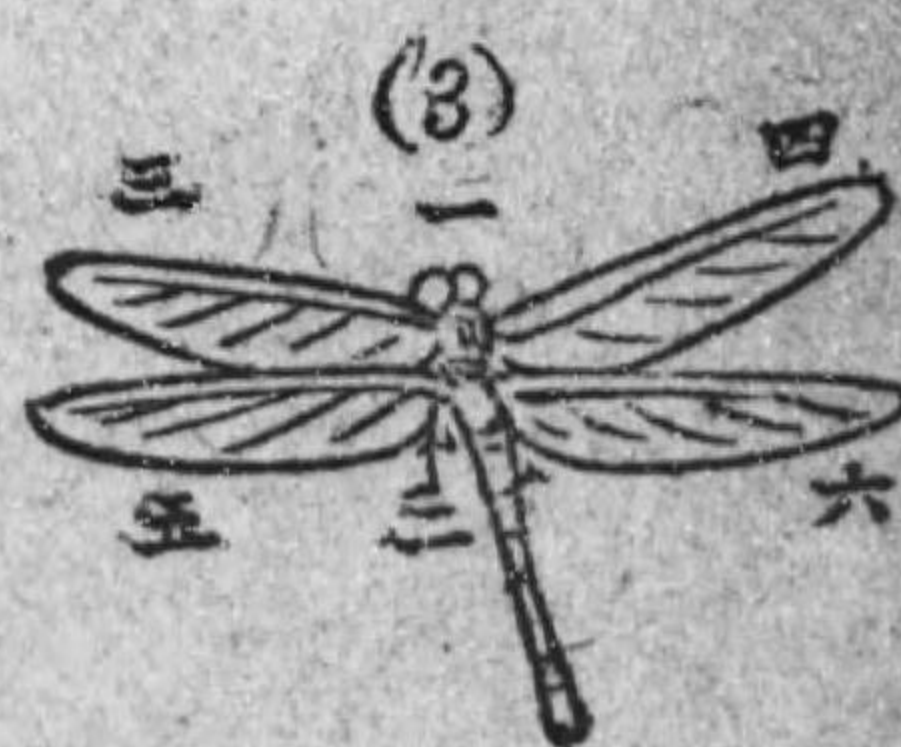
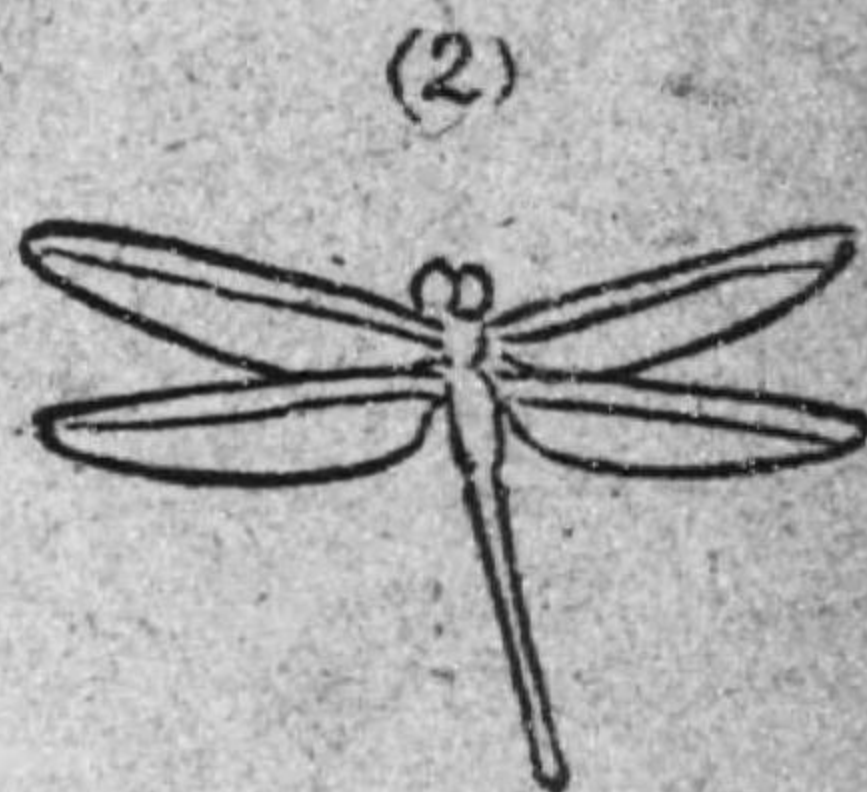
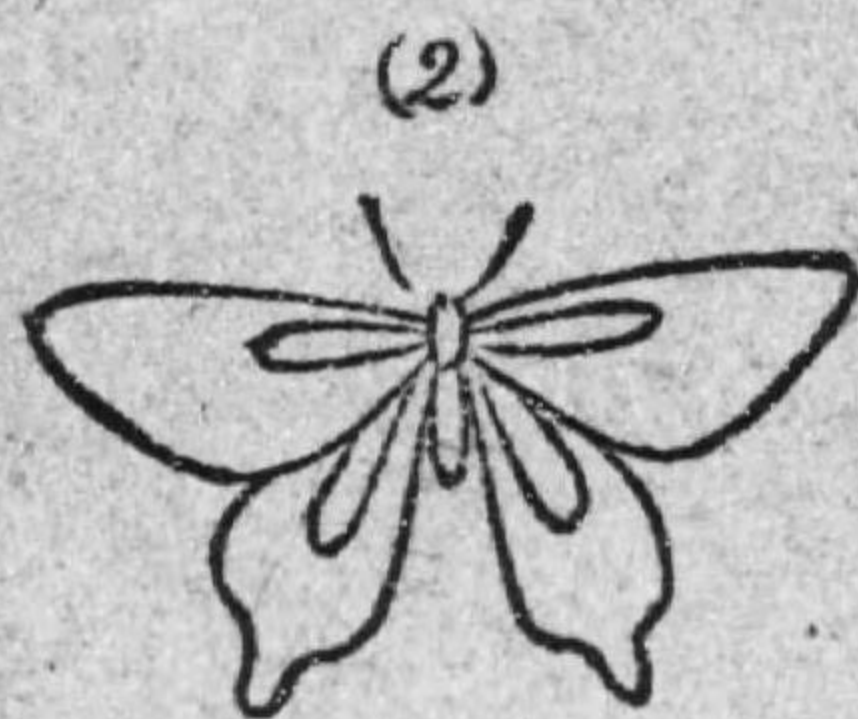
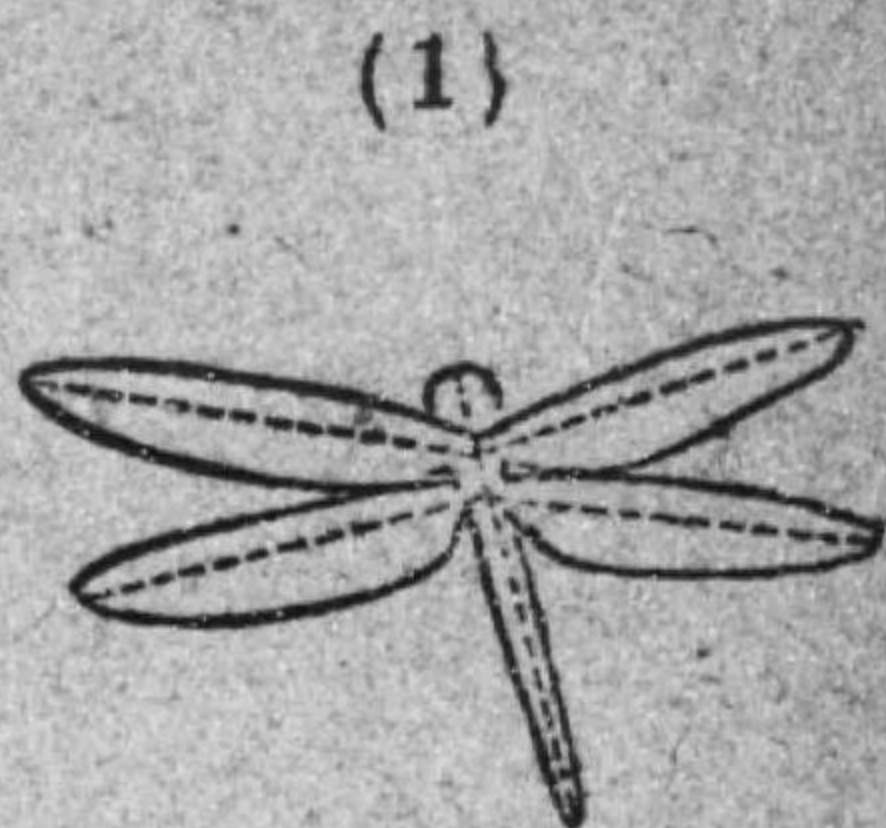
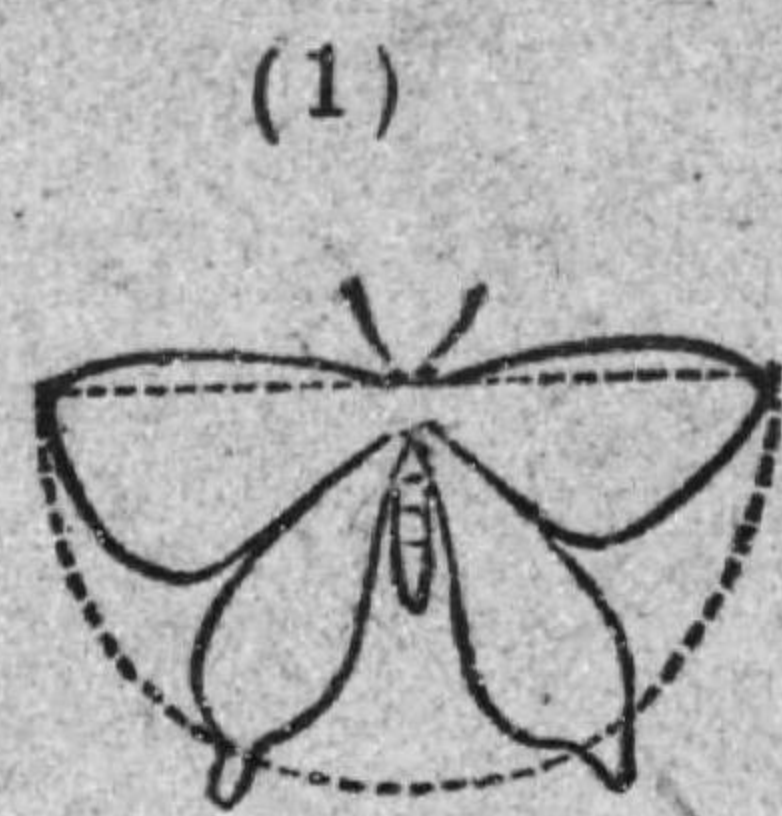
高等  
小學  
圖  
畫  
科  
表  
解

第一學年  
後期



珠算科 (高等第一學年後期)  
各諸等數、歩合算等の各問題は筆算の教科書につき珠算にて計算すべし





1. 毛筆畫の例一  
昆蟲の翼は至つて輕妙なるものなれば其描線も亦、重きを忌む。
2. 裾模様類は棲に近く繪元ありて圖形は多く變化に富む。
3. 浪の起伏、千鳥の配置をよく考ふべし。

五、練習

圖畫科 (高等第一學年後期)

一筆を用ふべし。鉛筆畫に於てはHB位の硬さの鉛筆一本にて足れり。

下書をするときには誤りを正すために消ゴムを用ふべし。ゴムは軟かなるをよしとす。

下書は鉛筆をこくかろく用ひて、大體の線より描き次第に細かなる所に及ぶべし。又一つのものが他のもの、かげにかかる、とも其全部を描きてよく位置を定め後にいらざる處を消すべし。

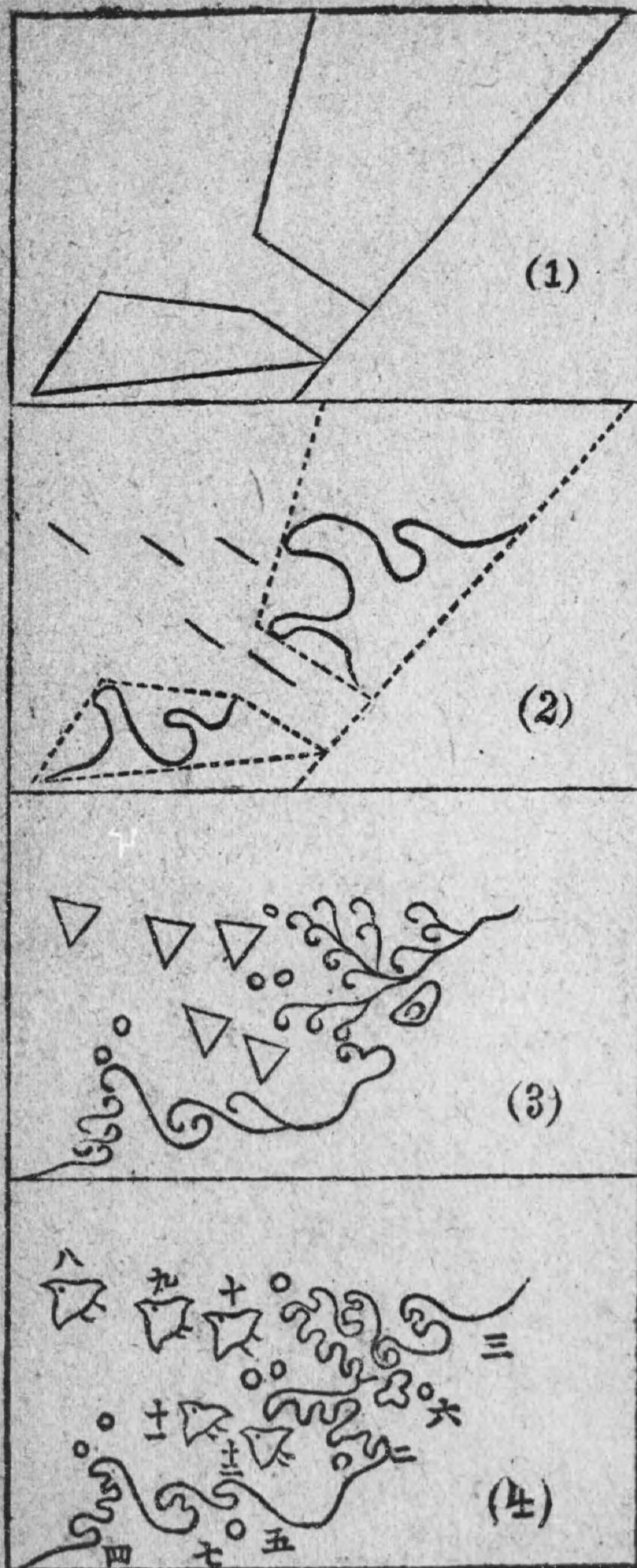
十分に下書をぎんみして後左上の方よりかき始めて右下に終るを普通とす。

清書 毛筆ならば墨のかはきたる後下書の鉛筆の線を消しとるべし。

注意 凡て圖畫を描くときには決していそぐべからず、根氣よく其仕上げを待つべし、畫の美術なること、之を描くによつて心を鎮め得ることを忘るべからず、又用紙をけがし紙を損せぬ様注意すべし。

高等  
小學  
體操  
科表  
解

第一學  
年  
後  
期



圖畫科 (高等第一學年後期)

一、胸首の運動  
胸をそのす

姿勢  
解説

體操科 (高等第一學年後期)

二

1. 頭と兩の肩とを後にひきて十分に胸をはり、脊骨に於て後にそる
  2. 其位置にやすむ
  3. 體をやすむ
  4. 其位置にやすむ
- 注意|| 頭のみ反り又は腰をうごかすが如きことあるべからず。
- 稱法... 四四||十六呼

二、全身運動  
膝半舉  
屈踵

1. 球竿を前に上ると同時に踵を上ぐ
2. 球竿を上にあげて半ば膝をまぐ
3. 1の位置に復す
4. 直立姿勢となる



三、全身運動  
側出  
屈膝  
臂の交互

屈膝  
側出

前出  
屈膝

1. 球竿を上にあげる
  2. 右臂をのばし左臂をまげて球竿を後にとると同時に右脚を右に開き左脚を十分のばす。
  3. 1の姿勢に歸る
  4. 直立姿勢となる
  5. 左に開く。
  6. 連続。十六呼
5. 連続||十六呼
- 直立姿勢



體操科 (高等第一學年後期)

三

1. 右脚を一步出して膝をかゝむると同時に左手を右肩の前にし右手を下

四、下肢運動 一臂前屈  
體操科 (高等第一學年後期)  
 1. 足をひきつけて舊位置に復す。  
 2. 左方に行ふ。4. もとに歸る 十六呼

五、肩及膝の運動 上舉  
 1. 兩臂をかむることなく前方より頭上にあぐると同時に右足を一步前に出して膝をまぐ。  
 2. 足を舊位置に復すると同時に臂を下ぐ。  
 3. 1の如く左足にて行ふ。4. 2の動作をなす。連續十六呼

六、呼吸運動 前舉の踵  
 1. 踵を舉げながら、靜かに兩臂を前方に上げて肩と水平ならしむ。  
 2. 此場合に十分氣を吸ふべし。  
 3. 臂を靜かに下すと同時に踵を地につけ十分に氣を吐くべし。  
 注意 此の動作はなるべく靜かにするを要す。

大正元年九月廿一日印刷  
 大正元年九月廿六日發行

定價金拾二錢

不許複製 著作權所有

編纂者 普通教育研究會  
 發行所 福岡元治郎  
 發行所 中村寅吉  
 發行所 荻原勝次郎  
 印刷所 博文館印刷所

發行所

東京市日本橋區本銀町三丁目  
 大阪市南區安堂寺橋通三丁目

振替貯金口座東京四八二〇番  
 鍾美堂書店  
 振替貯金口座大阪四五七番



5  
132

毎日の讀み物

勅語  
詔書  
の  
葉

小形美本全一冊  
定價金三錢五厘  
郵税金一一錢

この本は勅語と詔書の意味をもつとも平易に、だれにもわかるやうに解釋をしたものであつて、諸君はいふまでもなく我が日本の國民としては、かならず一冊を備へて毎日讀まねばならぬ書籍であります。諸君、はやく御求めになつて、よい日本人となるやうに御勉強なさい。またこの本の終りに五ヶ條の御誓文の講義ものせてあります。

東京 鍾美堂發行 大阪

終

